

平成三十年度 いわき市立大野第二小学校 修了式 式辞

春の風が校庭の芽吹いた木々の間を優しく通っていきます。

希望に満ちた、輝かしい春が、今年もやってきました。

今日で平成三十年度は終了し、明日からは楽しみな春休みがやってきます。

皆さんは、この一年間、一生懸命になって学校生活を送ってきました。ピカピカの一年生は、ちょっぴりお兄さん・お姉さんになりました。二年生、四年生、五年生も、それぞれ大きく成長しました。

校長先生は、始業式の日には三つのお願いをしました。覚えていますか？お願いしたことを守ることができましたか？

一つ目は、「人の心の痛みの分かる人であってほしい」ということでした。お友だちのことを思いやることのできる、優しい人でいられましたか？

これは、全校生にはなまるをあげたいと思います。校内持久走大会やながなわとび大会のときに、みんながお互いに励まし合うことができたからです。特に、学級全員がいつも仲良しだった一年生と、その一年生をおぶってあげたり、泳いであげたり、一緒に遊んであげたりした六年生に、満点を差し上げたいと思います。

二つ目は、「失敗してもくじけないでほしい」ということでした。皆さんは、うまくいかなかったときに、投げ出したりしないで、頑張ることができましたか？

これも、全校生にはなまるを差し上げましょう。算数のときも体育のときも、学習発表会のときだって大変なことがたくさんあったのに、あきらめないで頑張ることができましたよね。特に、海の子山の子の交流事業で一生懸命に頑張った五年生と、うまくいかなくても頑張る姿勢を一年生に見せてくれた二年生、そして一番失敗が多かったけれど、それが何よ！と強気で頑張ってきた四年生に満点をあげたいと思います。

三つ目は、「笑顔を忘れずに」ということです。つらいことやイヤなこと、やりたくないなあと思うことがあったとき、おともだちや先生、そしておうちの人に、いやな顔を見せたりしなかったですか？

皆さんの笑顔を見ると、おうちの方は、仕事の疲れも忘れてしまうくらいうれしいのです。逆に、皆さんににらまれたりしたら、おうちの方は、泣いてしまいそうになるくらい、悲しくなるのです。もちろん、先生方だって同じです。「笑顔になること」、「楽しいこと」と、「楽なこと」とは違います。つらくても、苦勞しても、それを他人のせいにははいけません。つらかったり、うまくいかなかったりするのには、自分の頑張りが足りなかったからです。たとえうまくいかなかったって、自分はここまで頑張ったんだという思いが、あなたを笑顔にしてくれるのです。笑顔とは、最強のアイテムなのです。ということを考えると、これは来年度への宿題として残りそうですね。

四月からは、いつでも笑顔でいられるような生活を送りたいですね。皆さんが、新しい四月からの生活に、新たな目標を見つけて、笑顔で生活できることを期待して、お話を終わります。

平成三十一年三月二十二日

いわき市立大野第二小学校長 千葉英一